

救急医療の受診について

症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「どこの病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」や「日中は用事がある」、「明日は仕事」などの理由で、救急外来を、夜間や休日に受診する人もいます。

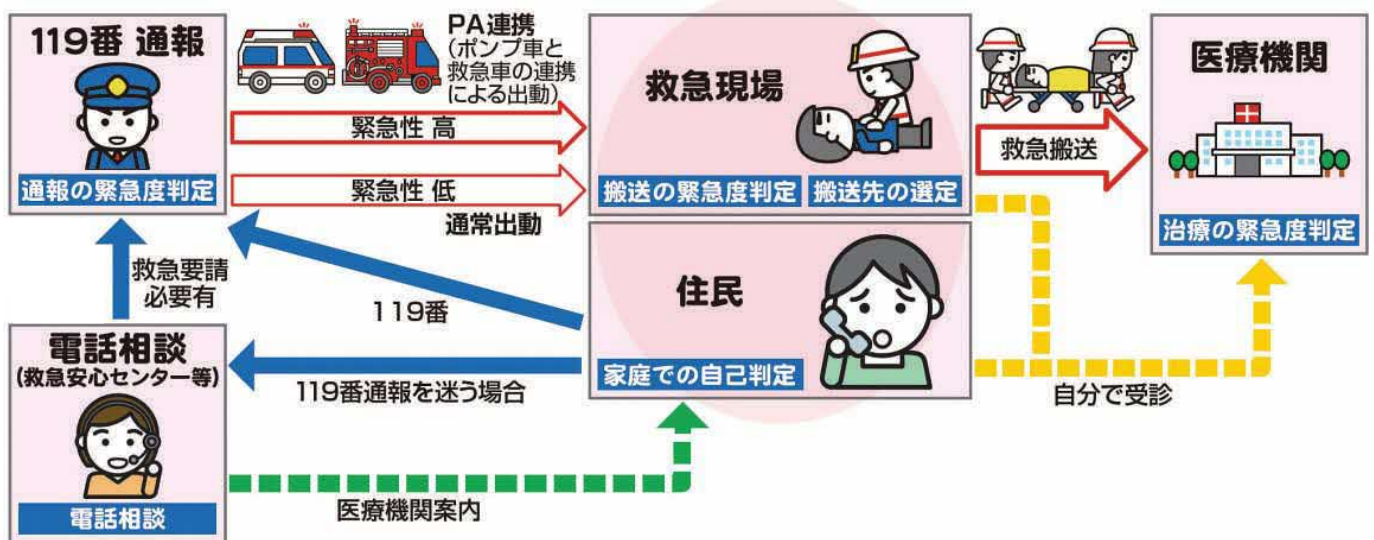
救急車や救急医療は**限りある資源**です。

いざというときの皆さん自身の安心のために、救急医療の受診について考えてみませんか。

こうしたケースで救急車が呼ばれました ～本当に必要か考えてみましょう～

- ・蚊に刺されてかゆい
- ・海水浴に行って、日焼けした足がヒリヒリする
- ・紙で指先を切った。血は止まっているが・・・
- ・病院でもらった薬がなくなった
- ・今日入院予定日だから、病院に行きたい
- ・ヘルパーを呼んだが来てくれなかったので、代わりに救急車を呼んだ
- ・病院で長く待つのが面倒なので、救急車を呼んだ

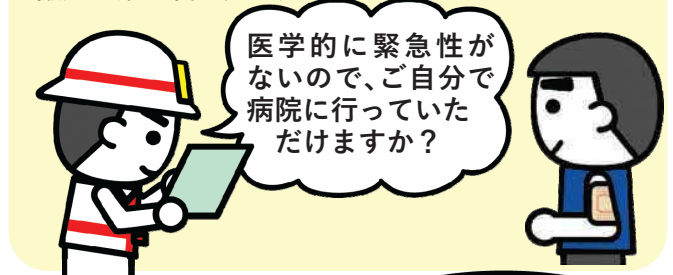
救える命を確実に救うためには、**緊急度に応じた救急医療を提供**することが重要です。



電話相談の例



搬送の緊急度判定の例



通報の緊急度判定の例



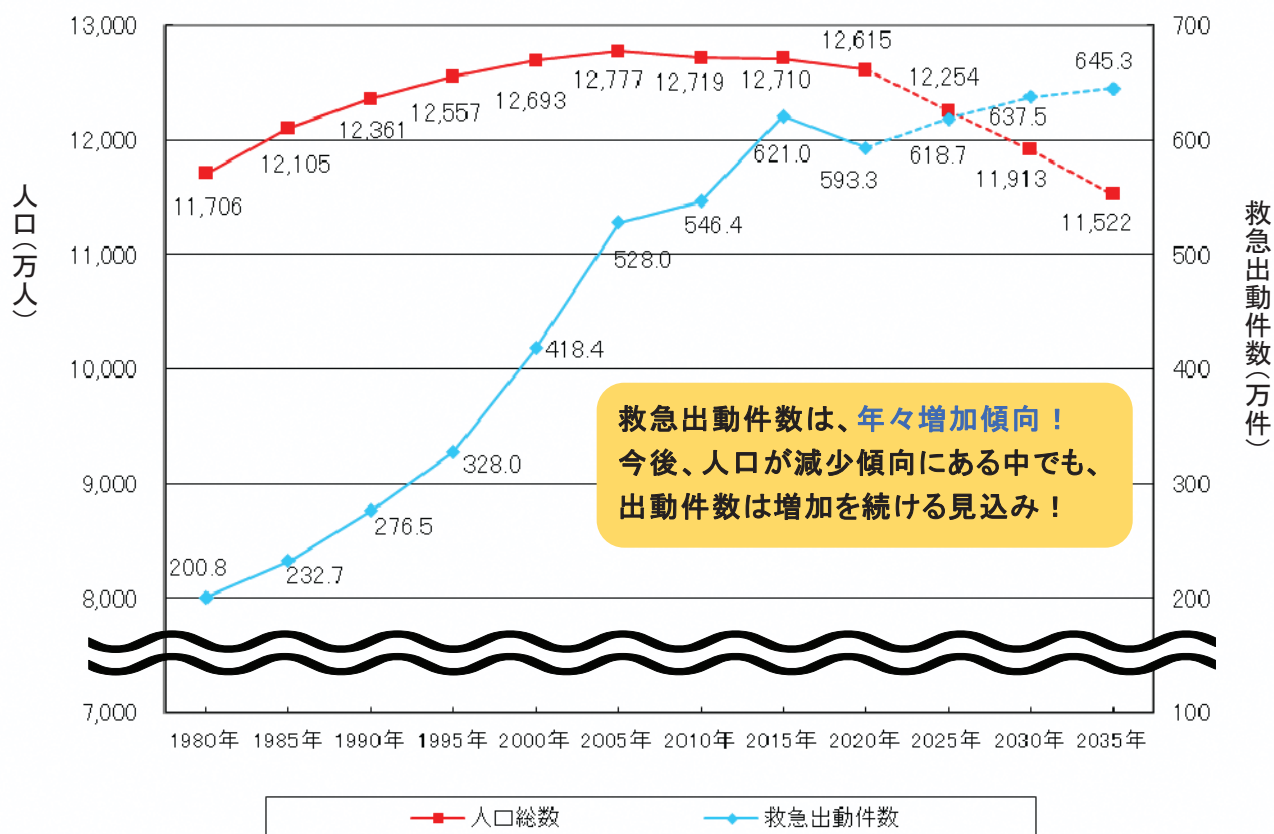
治療の緊急度判定の例



消防庁では、こうした**緊急度の判定基準**を共通のものとして、救急医療を効果的に提供する体制を作っていきたいと考えています。

参考：救急出動の現状と将来推計

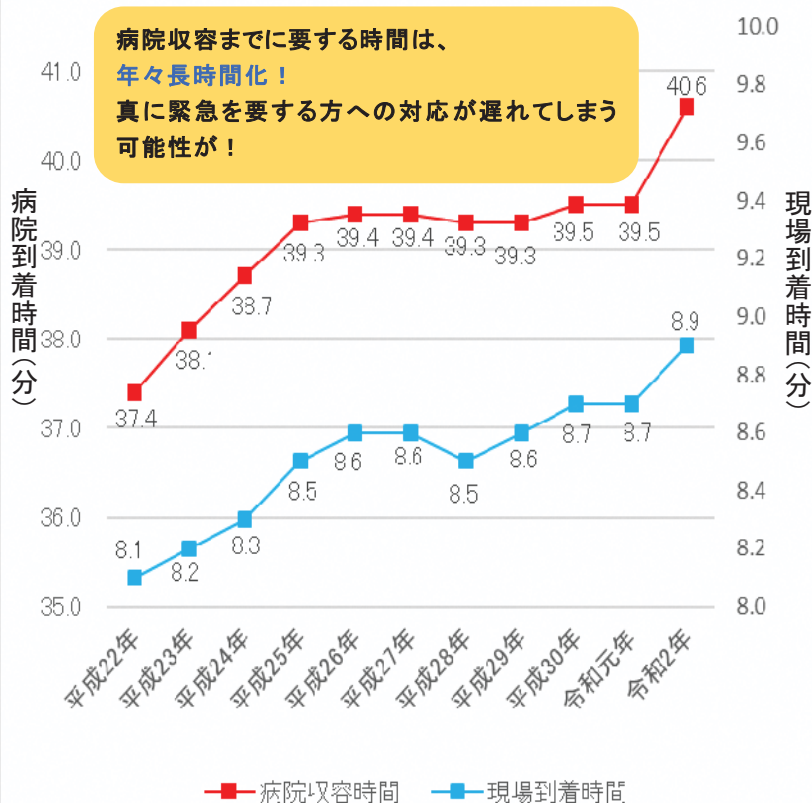
救急出動件数と人口総数の動向（2020年までは実績値、2025年以降は推計値）



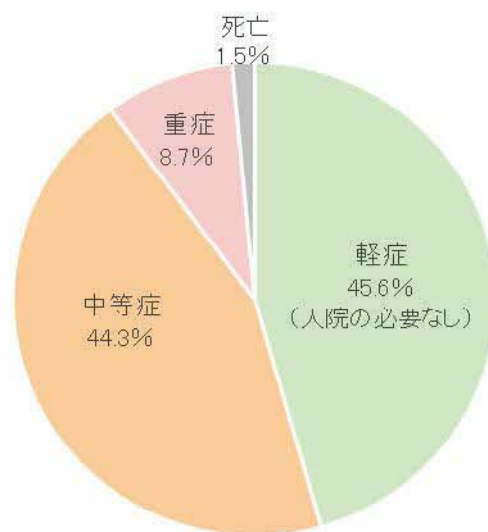
※推計人口は、「日本の市区町村別将来推計人口」（社会保障・人口問題研究所作成）の推計値を使用

※2025年以降の出動件数は、全国の救急出動データを基に推計したものであり、今後の搬送率の変化や社会情勢の変化等は考慮していない

現場到着時間及び病院収容時間の推移



救急車による傷病程度別 搬送人員構成比（令和2年）



救急車で搬送された人の約45%が
入院を必要としない軽症です！
この中には、本来、救急車を
利用する必要がなかった人も
いる可能性があります。